

# ポストコロナにおける移動ニーズに対応した ビジネスジェット等の活用に関する調査研究

令和5年6月7日

国土交通政策研究所

研究官 織田 直人

前研究官 服部 恭子

前研究調整官 鈴木 淳一郎

## 【調査の背景】

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響による航空旅客需要の低下が発生  
→ 接触機会が少なく感染リスクがより低いビジネスジェット等の活用に注目
- 国内における上質なインバウンド創出の推進（主に富裕層をターゲット）  
→ 『観光立国推進基本計画』や『地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりに向けたアクションプラン』等にて、地方誘客に効果の高いコンテンツの整備やビジネスジェット等の活用を含めた海外からの富裕層客のシームレスな移動が求められている。

## 【調査の目的】

ビジネスジェット等の利用者層をターゲットに、地方における地域振興と空港の利用活性化、環境改善等に向けた方策を検討する。

本調査は2カ年で実施、1年目は海外の主に地方におけるビジネスジェット等利用者層において必要とされる空港周辺地域のサービス等に関する事例調査と整理を実施しました。

## 海外の主に地方におけるビジネスジェット等利用者層において必要とされる 空港周辺地域のサービス等に関する事例調査と整理を実施

### ① ビジネスジェット等の利用促進につながる空港周辺地域のサービス等の整理について

- ✓ ビジネスジェット等の概要、利用目的、利用者層
- ✓ 調査の項目整理、深掘り調査対象地域（海外の地方地域10カ所）の選定



### ② 海外の空港周辺地域におけるサービス等の事例の深掘り調査

- ✓ ビジネスジェット等利用者層視点での空港到着から、目的地までを考慮
- ✓ 誘客につながっていると想定される項目別に情報収集  
（文献、インターネット等含め公表されている情報を主に抽出）



### ③ 深掘り調査結果の整理とまとめ

- ✓ 国内に置き換えた場合に優先的に検討すべき（しやすい）点の整理

## 【ビジネスジェットとは】

- 企業・団体または個人が商用目的で利用する航空運送
  - 運航形態は社用機や個人所有機等の自家用運航  
又は航空会社の事業用機のチャーター運航
- ※本調査では、上記に加え観光目的等のプライベートジェットと呼ばれるものを含めたジェット機による移動を含め『**ビジネスジェット等**』と定義



Global6000  
(航続距離約11000km 最大19名)

## 【ビジネスジェット等の利用目的】

- ① 時間節約（顧客都合で自由なスケジュール調整）
  - ② 自由な目的地選択（航空会社に影響されない）
- 上記が主な利用目的であり、これに加えプライベート空間確保、安全性、快適性、感染リスクの抑制

## 【ビジネスジェット等の利用者層】

※利用者層や富裕層の分類等は巻末参考資料参照

- ビジネスジェット等を自己保有し、長距離、短距離フライト共に自由に個人利用するのは、主に平均純資産額10億ドル以上の億万長者が中心であり、世界的にもごく少数の層
- チャーター等で観光目的等にて短距離フライト中心に利用するのは超富裕層
- 短距離だが直行便がなく大幅な時間短縮が可能等の様々な利点が生かせる場合は、それ以外の層の利用も想定されるが、現状高額であり富裕層以上の利用であると推測

主に時間節約、自由な目的地選択などシームレスな移動を求め超富裕層、富裕層以上が利用

# 利用者層にて地域に必要とされる項目の整理

## 【利用者層にて地域に必要とされる項目(空港、アシ、ウリ、ヤド、ヒト、コネ)】

- 主に超富裕層及び富裕層を着眼点とすることから、空港到着から目的地までをイメージし、観光庁の「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりに向けたアクションプラン」(令和4年5月)等による分類例も参考に、本調査では『**空港**』『**アシ**』(本調査では**空港からの二次交通**)『**ウリ**』『**ヤド**』『**ヒト**』『**コネ**』を調査項目として整理

項目	内容	具体想定例
① <b>空港</b>	空港のビジネスジェット等受入体制等の状況	FBO* <sup>1</sup> の有無や提供サービス、ビジネスジェット等における空港の利用状況
② <b>アシ</b>	出入国時はもとより国内移動も含めたトータルで利用者層のニーズを踏まえた利便性・快適性やシームレス化に対応する二次交通	空港到着後から目的地までの富裕層向け二次交通、高級送迎車やヘリコプター等の移動サービス
③ <b>ウリ</b>	利用者層のニーズを満たす滞在価値	自然・遺産、各種ツーリズム、その他
④ <b>ヤド</b>	利用者層のニーズを満たす質、かつ地域のストーリー等を感じられる宿泊施設	ニーズを満たす地域の特色に沿った高級ヴィラ* <sup>2</sup> 、高級シャレー* <sup>3</sup> 、高級ホテルスイート等
⑤ <b>ヒト</b>	利用者層を地域に送客する人材や、地域において質の高いサービスを提供するガイド等の人材	ガイド、コンシェルジュ等
⑥ <b>コネ</b>	日本を利用者層の目的地として認知してもらうための売り込み	誘客に向けた観光戦略やキャンペーン等

\* 1 Fixed Base Operator 空港内または空港隣接地を拠点として、一般航空の航空機とその運航業者などに関連サービスを提供する事業者のこと。運航支援提供に加え各種コンシェルジュサービスを提供する事業者もある。

\* 2 敷地内のレストランや大浴場などの施設とは分離した、1棟まるごと客室の別荘のような宿泊施設。

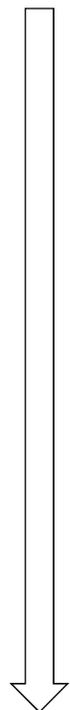
\* 3 山小屋タイプの宿泊施設の総称。元々は、スイスの山岳地域に立地した宿泊施設の名称。

【項目の想定・確認事項】

出発空港



到着空港



目的

			ヒト	コネ
	<p>&lt;サービス&gt;</p> <p><b>空港</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○空港体制等</li> <li>・各種申請等</li> <li>・C I Q等</li> </ul>	<p>&lt;ハード&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○空港設備</li> <li>・運用時間</li> <li>・F B O等</li> <li>・専用施設</li> </ul>	<p>&lt;想定提供者&gt;</p> <p>国、自治体 空港事業者 航空事業者</p>	<p>&lt;想定される課題や工夫点抽出&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者層の傾向より短距離移動(域内)の活用が多いと想定する。</li> <li>○地方は発着枠の問題は少ない。</li> <li>○国内においては首都圏空港含め事前手続等は短縮・緩和等を実施中。</li> </ul>
	<p><b>アシ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○空港からの移動</li> <li>・高級送迎車等の活用</li> </ul>		<p>民間事業者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地方の場合需要全体の関係上、不足の可能性があり、地域特性にて富裕層の活用例を確認する。</li> </ul>
	<p><b>ヤド</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○宿泊施設</li> <li>・高級ヴィラ、高級ホテル(付帯サービス提供含む)</li> </ul>		<p>民間事業者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地方は定常的に不足している可能性があり海外の事例等富裕層の活用例を中心に確認する。</li> </ul>
	<p><b>ウリ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○富裕層向け資源等</li> <li>・ビーチ、スノー</li> <li>・自然、遺産、文化等</li> <li>・各種ツーリズム</li> </ul>		<p>民間事業者 DMO関係者 国、自治体 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地方地域にてウリとして潜在的なものにおいて可能性があることから、海外(主に地方)においても富裕層の活用例を中心に確認する。</li> </ul>

## 【深掘り調査対象地域の選定における考慮点】

- 将来的に日本への参考事例となることを留意し、ビジネスジェット等の来訪が多い地域、及び観光庁の「上質なインバウンド観光サービス創出に向けた観光戦略検討委員会」等にて進められた各分野において先進的に取組を進めている地域等、以下を考慮

- 文献、インターネット等調査にてビジネスジェット等を利用する富裕層に人気の高い、もしくはビジネスジェット等による来訪が多いとされる主に地方と位置づけられる地域

※例として新千歳空港の年間到着数(2018)は国内から145機、海外から北海道全体で357機

- 地域内にビジネスジェットの着陸が可能と思われる空港が存在する地域

- 観光庁の「上質なインバウンド観光サービス創出に向けた観光戦略検討委員会」等にて進められた各種ツーリズム等において先進的に取組を進めている地域

※国内への事例活用を想定しタックスヘイブンやカジノが主な来訪目的とされている地域は除外)

- 選定地域（欧米、アジア等）や分類（夏、冬、自然、ツーリズム）のバランス

- 地域の広さによりウリまでのアクセスに距離のある地域

※主に空港より遠方に目的地がある場合の富裕層向け二次交通の状況例把握を目的

【選定した深掘り調査対象地域】

地域	国(地域)	選定考慮点	ウリの想定例
<u>イビザ</u>	スペイン (欧州)	ビジネスジェット等来訪実績があり富裕層に人気 夏のリゾート地 (離島)	ビーチ等
シチリア	イタリア (欧州)		
サンモリッツ	スイス (欧州)	ビジネスジェット等来訪実績があり富裕層に人気 冬のリゾート地	スノー等
<u>アспен</u>	アメリカ (北中米)		
プーケット	タイ (アジア)	ビジネスジェット等来訪実績があり富裕層に人気 アジアの夏のリゾート地	ビーチ 世界遺産等
<u>バリ</u>	インドネシア (アジア)		
ニュージーランド	ニュージーランド (オセアニア)	アドベンチャーツーリズムや自然等がウリ エリア広域 (二次交通の確認)、富裕層に人気	アドベンチャー 自然等
パタゴニア	チリ・アルゼンチン (南米)		
コスタリカ	コスタリカ (北中米)	その他 (サステナブルツーリズム先進地域) エリア広域 (二次交通の確認)、富裕層に人気	サステナブル アドベンチャー等
ロスカボス	メキシコ (北中米)		
		その他、富裕層に人気 夏のリゾート地 (離島以外)	ビーチ等

本発表では、イビザ、アспен、バリの3地域について深掘り調査例として簡単に紹介

# 深掘り調査例 スペイン イビザ①

## 地域概要・空港

- 人口：約15万人(2022年)
- 面積：約571km<sup>2</sup>  
(沖縄本島の約半分)
- イビザ空港：国内外定期便有  
24時間運用(季節により異なる)  
滑走路 2800m×1本
- FBO及び専用ターミナル施設有
- BJ等到着数：5221(2017年)  
(約97%がヨーロッパ内、2022年  
夏期はヨーロッパでスペインが最  
多かつスペイン内でイビザが最多)

## ■ イビザ位置 (地中海内スペイン)



## ■ 空港のビジネスジェット等到着数 (2017)

出発(地域)	出発(国別)	到着数	構成比
ヨーロッパ	Spain	1415	27.1%
	Finland	866	16.6%
	United Kingdom	669	12.8%
	Italy	539	10.3%
	Germany	399	7.6%
	Switzerland	307	5.9%
	Others(33カ国)	885	17.0%
合計(39カ国)		5080	<b>97.3%</b>
北中米	US	39	0.7%
	Others(7カ国)	16	0.3%
合計(8カ国)		55	1.1%
アジア・中東	合計(11カ国)	28	0.1%
アフリカ	合計(7カ国)	58	1.1%
総合計		5221	-

※WINGX (調査機関) データを加工しANA総研作成

## アシ (空港からの二次交通)

- ① 高級送迎車  
空港送迎の他、好きな場所へのプライベート送迎、イビザ島の観光ツアーも提供。顧客所有の車のプライベートドライバーとして運転サービスもあり。提供サービスは、事業者に加え空港のFBOや各種コンシェルジュサービスを通じても手配可能。高級レンタカーも手配可能

- ② ラグジュアリー・ヨットチャーター  
近隣離島への移動、クルーズ利用

## ■ 空港との位置関係



# 深掘り調査例 スペイン イビザ②

## ウリ（ニーズを満たす滞在価値）

### 【文化等】

- ① クラブカルチャー  
(ナイトクラブ等  
VIPテーブル利用)

### 【自然・遺産】

- ② ビーチ
- ③ 世界遺産  
(歴史的建造物)

### 【各種ツーリズム】

- ④ ガストロノミー\* 1
- ⑤ アグリ\* 2



高級ヴィラ例

## ヤド（上質かつ地域のストーリー等を感じられる宿泊施設）

### ① 高級ヴィラ 多数

1棟貸1泊（～約240万円）  
シェフ・コンシェルジュ等サービス（有料）

### ② 高級ホテル 複数

最上級スイート1泊（～約100万円）  
高級レストラン・クラブ併設

## ヒト（ガイド等の人材）

### ① クリエイティブツーリズム促進策による人材活用 (イビザ市議会)

伝統的に芸術家や創造的な人々が集まる地域の特性を生かし、行政を中心に観光等の事業者、専門家・地域の人々と連携し、参加型体験プログラムを開発

例：DJ・俳優・サーカス・美術工芸等体験

「Ibiza Creative プログラム」として、電子音楽・DJ・劇等を学ぶためのクラス等、現代にマッチする新しいものを創造するためのプログラム提供。

## コネ（目的地として認知してもらうための売り込み）

### ① 冬季誘客戦略【BETTER IN WINTER】 (バルアレス地方政府・バルアレス観光局)

クラブ等営業期間外のローシーズンである冬に、より付加価値の高い、持続可能な観光商品を提供できるように遺産、文化、自然、スポーツ、芸術、ショッピング等を楽しんでもらうための戦略の推進

例：主要な国際的観光見本市での発表・出典  
World Travel Market (ロンドン)  
International Tourism Fair (マドリッド) 等

\* 1 その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しみ、食文化に触れることを目的としたツーリズム

\* 2 主に農山村部など自然豊かな場所に滞在し、周囲の環境や文化、そこに住んでいる人々との交流を楽しむツーリズム

# 深掘り調査例 アメリカ アスペン①

## 地域概要・空港

- 人口：6,949人（2020年）
- 面積：約9.1km<sup>2</sup>  
（北海道ニセコ町の5%）
- ピッキン・カウンティ空港  
国内定期便有り  
7:00～23:00  
滑走路 2440m×1本
- FBO及び専用ターミナル施設有
- BJ到着数：10971（2017年）  
（約98%が米国内から）

## ■ アスペン位置（アメリカ合衆国コロラド州西部、ロッキー脈の都市）



## ■ 空港のビジネスジェット等到着数（2017）

出発(地域)	出発(国別)	到着数	構成比
北米	United States	10,781	<b>98.3%</b>
	Brazil	103	0.9%
	Colombia	29	0.3%
	Venezuela	24	0.2%
	その他(5か国)	13	0.1%
中南米	合計(8か国)	169	1.5%
	Australia	11	0.1%
	Japan	1	0.0%
	Indonesia	1	0.0%
アジア・太平洋	合計(3か国)	13	0.1%
	中東・その他	合計(2か国)	8
合計(13か国)		10,971	100%

※WINGX（調査機関） データを加工しANA総研作成

## アシ（空港からの二次交通）

### ① 高級送迎車

アスペンは宿泊先や目的地への距離が近距離であり、空港の他希望の場所への送迎や観光ツアー対応可能な事業者が複数有り。また空港が利用不可能な際の、近隣空港（約4時間）への送迎等も対応可能  
特にスキーシーズンは、寒冷地に対応したスノータイヤ、四輪駆動、スキーを積める追加貨物用のラゲッジラックが標準装備であり、あらゆる道路状況でパワーと安全性を提供。リムジンからからスキー道具を載せる貨物・バス等の車種も豊富に提供

## ■ 空港との位置関係



## ウリ（ニーズを満たす滞在価値）

### 【自然・遺産】

- ① スノー（スキー場はニセコとほぼ同規模、各種国際大会誘致）

### 【各種ツーリズム】

- ② ウェルネス
- ③ アドベンチャー
- ④ サステナブル

### 【文化等】

- ⑤ クラブカルチャー
- ⑥ アート&カルチャー
- ⑦ ショッピング



## ヤド（上質かつ地域のストーリー等を感じられる宿泊施設）

- ① 高級ヴィラ 1棟貸  
5泊（300万円前後）  
専属コンシェルジュ  
24時間体制のサポート

- ② 高級ホテル 複数  
最上級スイート  
1泊（50万円前後）  
スパ・スキーコンシェルジュ等

- ③ 高級不動産  
近年需要が拡大  
1棟平均約1,320万  
US\$（2022年）



## ヒト（ガイド等の人材）

- ① 観光ガイド（事業者）  
緊急医療の認定を受けたガイドによる、バックカントリースキーやロッククライミング、ハイキング等を様々なニーズに応じた、知識の高いガイドの手配が可能

- ② ホスピタリティ関連（事業者）  
ベビーシッターの用意。それに加え乳幼児教育、保育のプロフェッショナルとして働くナニーの手配が可能

- ③ スキーインストラクター育成（事業者）  
指導に加え、地域内スキー場ガイド、キャンププログラム等

## コネ（目的地として認知してもらうための売り込み）

- ① コロナ復興再スタートプログラム  
（コロラド州政府観光局とアスペン市の協力体制）  
助成金、地方自治体・地元企業等による非営利団体によるサポートや観光価値、来訪者体験の向上の取組

- ② サステナブル活動、プロモーション  
再生可能エネルギー100%宣言（アスペン市）  
持続可能性ケア観光推進（コロラド州政府観光局）

- ③ カーボンオフセット投資（スキー場運営事業者）  
温室効果ガスの排出削減への近隣事業者への投資等

# 深掘り調査例 インドネシア バリ①

## 地域概要・空港

- 人口：約436万人（2021年）
- 面積：約5,780km<sup>2</sup>（東京都の2.5倍、沖縄本島の4.7倍）
- ングラ・ライ国際空港  
国内外定期便有り、24時間空港（時期により時間運用）  
滑走路 3000m×1本
- FBO及び専用ターミナル施設有
- BJ到着数：約800（2017年1月～8月データより推計）

- バリ位置（インドネシア共和国バリ州に属する島）



- 空港のビジネスジェット等到着数（2017年1月～8月）

※以下データより月別平均は69便規模となり、これを年間ベースで換算した場合、ビジネスジェット等は年間約**800便程度**到着程度到着していると推測

2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	期間計
到着	46	54	65	64	72	64	77	110	552
出発	50	55	62	63	76	61	78	112	557

※空港FBOであるGENERAL AVIATION TERMINAL(GAT)公開データを加工し作成

## アシ（空港からの二次交通）

### ① 高級送迎車

空港からバリ中心部まで10km圏内、リムジン等各種車両、空港他の送迎や観光ツアー対応可能  
多言語対応ドライバー、州認定ガイド同乗、追加オプションVIP出入国対応（オプション）

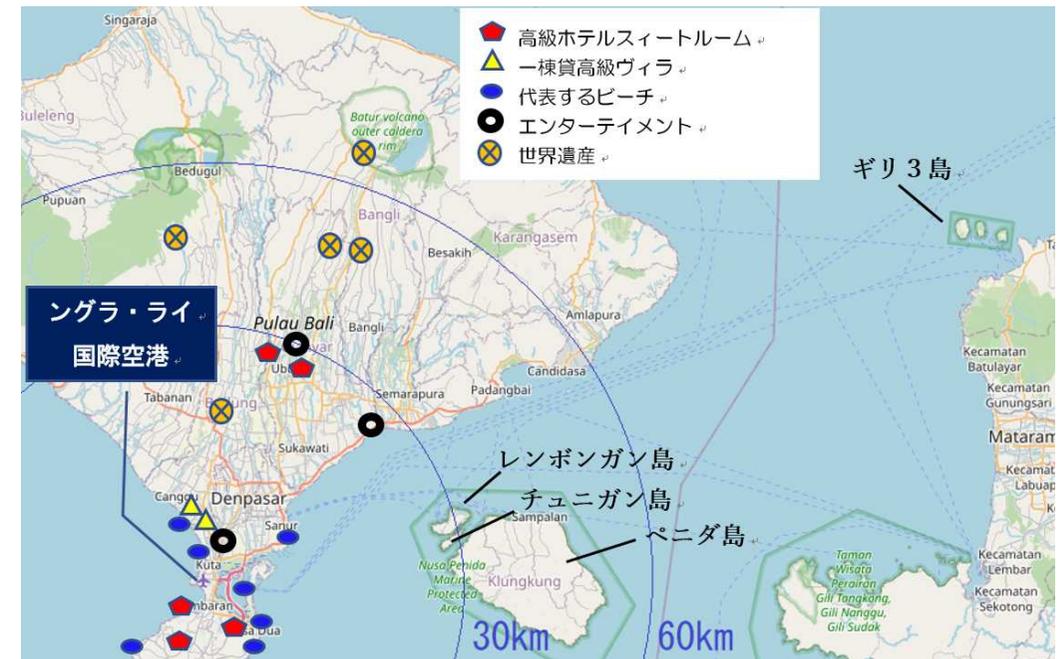
### ② チャーターヘリコプター

空港等から近隣の離島や距離のある世界遺産等の目的地への迅速な移動が可能な事業者あり

### ③ ラグジュアリー・ヨットチャーター

離島移動、デイクルーズ用。フィッシング、料理等対応

## ■ 空港との位置関係



## ウリ（ニーズを満たす滞在価値）

### 【自然・遺産】

- ① ビーチ
- ② 世界遺産

### 【各種ツーリズム】

- ② ウェルネス
- ③ アグリ
- ④ サステナブル

### 【文化等】

- ⑤ クラブカルチャー
- ⑥ ゴルフ
- ⑦ ショッピング



## ヤド（上質かつ地域のストーリー等を感じられる宿泊施設）

- ① 高級ヴィラ 1棟貸  
1泊（約10万円～）  
プール、コンシェルジュサービス、  
専属シェフサービス（有料）

- ② 高級ホテル  
最上級スイート  
1泊（約15万円～）  
レストランやスパ、プール併設



## ヒト（ガイド等の人材）

- ① ツアーガイド免許制度（バリ州政府観光局）  
ガイドは州政府発行免許が必須で、取得には文化や言語に関する知識が求められ、外国人に免許は発行していない。ガイドの際はバリ民族衣装を着用、適切な報酬を受けることも制定（自国民の雇用確保と、バリの正しい文化、歴史を観光客に伝えるため）

- ② 観光人材の育成（バリ州政府等）  
観光サービスを提供する労働力を拡大させるために、国立観光専門学校や国立観光大学等、観光系の学校が存在

## コネ（目的地として認知してもらうための売り込み）

- ① 富裕層特化型の取組（インドネシア政府等）  
オンラインイベント等による海外プロモーション  
セカンドホームビザ等による富裕層長期滞在の促進
- ② 医療・ウェルネスへの投資（インドネシア政府）  
医療やウェルネスのハブ開発、医療観光地として取組  
国際医療観光見本市でのアピール活動  
医療・ウェルネスツーリズムへの資金提供と人的資源構築
- ③ メタバースの活用による観光プロモーション  
（インドネシア観光創造経済省、アドテクマーケティング業者）

# 深掘り調査結果の整理(空港、アシ、ヤド、ウリ)

## 【海外10地域において確認した『空港』】

- ビジネスジェット等を受け入れるFBOは選定地域にて基本的\*に存在 \*パタゴニアのみ国の首都圏空港のみ存在
- 空港内基本的サービスに加え、利用者が到着後に活用する高級送迎車や宿泊施設等の手配を行う  
コンシェルジュサービスの提供事例も多い
- 今回調査対象の欧米の各地域においては、ビジネスジェット等による来訪元は9割以上が同国か近隣  
国であり、主に域内移動（ヨーロッパ内、北米内など）が中心

## 【海外10地域において確認した『アシ』（空港からの二次交通）】

- 利用者層が地域特性に応じて活用する二次交通手段がそれぞれ各地域に存在
  - ・ 高級感とシームレスな目的地までの移動を可能とする高級送迎車
  - ・ 空港から距離のある目的地まで短時間移動を可能にする、チャーター・ヘリコプター
  - ・ 離島までの移動やクルーズを可能にする、ラグジュアリーヨット・チャーター

## 【海外10地域において確認した『ヤド』】

- 特性に応じた一棟貸の高級ヴィラ（シャレー）、高級ホテルスイート、富裕層向け不動産が存在

## 【海外10地域において確認した『ウリ』】

- 全ての地域において特性に応じたウリとなるものが存在
  - ・ 自然や遺産：ビーチ、スノー、世界遺産や歴史的建造物、国立公園
  - ・ 各種ツーリズム：医療、ウェルネス、サステナブル、アドベンチャー、ガストロノミー、アグリ
  - ・ 文化や生活スタイル：クラブカルチャー、ゴルフ、アート&カルチャー等

# 深掘り調査結果の整理(ヒト、コネ)

## 【海外10地域において確認された『ヒト』の例】

- 観光ガイド、プロフェッショナル人材、観光促進人材、ホスピタリティ人材の育成や存在を確認
  - 質的・量的に人材確保と育成を目的に観光ガイド人材のステータス化、職業化（資格認定等）
  - 専門的なスキルが必要な多岐にわたる、コンシェルジュやインストラクター等の各地域の特性に応じたプロフェッショナル人材の育成
  - 観光促進人材の確保として観光サービス向上のための講習実施、富裕層旅行市場専門のチームを発足
  - ホスピタリティ関連人材としてベビーシッターや乳幼児教育の専門家の存在を確認

## 【海外10地域において確認された『コネ』の例】

- 政府、自治体、事業者等によるプロモーション、投資、観光戦略等の事例を確認
  - 一般消費者(個人)向けから、関連する組織向けプロモーションへの転換（航空会社、ツアーオペレーター、観光アドバイザー、メディア等との連携強化、ターゲットの明確化）
  - SNS・メタバース・ポータルサイト・専用アプリの開発等個人向けの直接的戦略の推進
  - 観光資源に加え、地域における各種ツーリズム特性を生かしたプロモーション拡大
  - エコ対策（カーボン・オフセット）やデジタル化、インフラ整備
  - 観光戦略として観光需要拡大策（新ツーリズム設計等）、外国人富裕層に特化した戦略
  - 入国対応として富裕層向けビザ発給
  - コロナ後の対応としてコロナ再スタートプログラムを設計・推進

**まとめ(今後の調査・検討課題の整理①)**
**【調査結果】**
**『空港』**

ビジネスジェット等を受け入れるFBOは地域内の空港に基本的に存在

FBOで送迎車や宿泊施設等手配を行うコンシェルジュサービス提供事例も多い

本調査対象地域では来訪元は主に域内からの比較的近距离からのフライトが多い

**『アシ』**

高級感とシームレスな目的地までの移動を可能とする高級送迎車の事業者を確認

空港から少し距離のある目的地に移動を可能にする、チャーター・ヘリコプターの需要も高い

離島までの移動やクルーズを可能にする、ラグジュアリーヨット・チャーターの存在も確認

**『ヤド』**

一棟貸の高級ヴィラ（シャレー）や高級ホテル（スイートルーム）がどの地域にも存在

ソフト面（専用シェフや、コンシェルジュ等）が充実した施設がどの地域にも存在

別荘や定住に向けた富裕層不動産の拡大

**【日本にて想定される調査・検討課題】**

本調査にて把握した各空港の到着数は、9割以上が同国・近隣国からの渡航が中心。例えばターゲットを富裕層が増加傾向にある近距离のアジアに着眼するなど、ビジネスジェット等の観点では近隣（国内含む）の動向等に注視し体制検討が必要と考える。

各目的地までシームレスな移動を可能とする送迎車等の二次交通は、ビジネスジェット等利用者層、それ以外の富裕層の共通ニーズであり、概況調査が最も必要と考える。また、海外ではヘリコプター等の活用例もあり、国内での可能性等も調査が必要と考える。

ハード及びソフトを備えた宿泊施設、空港との位置関係を踏まえ二次交通例も含めた調査が必要と考える。また、施設（サービス含む）の強化に加え、日本独自の宿泊施設が磨き上げ等にてニーズを満たすかの市場調査等は別途必要と考える。

## まとめ(今後の調査・検討課題の整理②)

## 【調査結果】

その地域が有する「自然や遺産」、「各種ツーリズム」、「文化や生活スタイル等」を複合的に競争力の高いブランド力を、それぞれが発揮

富裕層ニーズとしてサステナブルは重要

地域特性に応じたアクティビティ等の付加価値を加味した新たなツーリズムの開発の確認

富裕層誘客推進人材や地域において質の高いサービスを提供するガイド・コンシェルジュ・ホスピタリティ等人材育成を各地域で確認

公的な資格認定によるステータス向上や、育成のための助成金制度等、取り組みを各地域で確認

富裕層誘客のためのプロモーション、観光需要を拡大させるための各種投資、観光戦略、富裕層向けビザ発給等、多岐に渡る地域ごとの戦略や、国と地域と各組織、住民が必要に応じ協力し実施している事例を確認

## 【日本にて想定される調査・検討課題】

富裕層の認知度やポテンシャルが高いコンテンツ、点在するウリに更に磨きをかけ、競争力の高いブランド化の推進、また富裕層ニーズからサステナブルは特に注力すべきと考える。また、ウリに加えヤド、アシ等との複合的誘客検討や幅広いニーズへの対応も重要と考える。

海外の富裕層に対応できる観光ガイド、コンシェルジュ、ホスピタリティ関連の資格認定や育成など、誘客に向けた強化は重要なポイントとなると考える。

富裕層誘客のためのプロモーション、観光需要拡大のために各種投資、観光戦略、富裕層向けビザ発給等、多岐に渡る地域ごとの戦略や各種施策が、日本の地域において参考となるかの比較検討が必要と考える。

『ウリ』

『ヒト』

『コネ』

## 【今後の調査に向けた国内の動向整理】

- 国内でも富裕層対応として観光庁より『地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりに向けたアクションプラン』により、モデル観光地の設定等により既存の観光資源を生かし、『ウリ』『ヤド』『ヒト』『コネ』それぞれで取組が既に推進されている。
- 空港からの二次交通についても、ビジネスジェット等と同様に『時間短縮、シームレスな移動等を求める富裕層』に対応可能な体制が必要があり、空港からウリやヤドまで比較的距離のあることもある地方地域においては、手配可能な送迎車等に加えヘリコプター等その他移動手段の活用も想定される。

## 【今後の調査予定】

- 国内の空港を含む地域をいくつか選定し、主にビジネスジェット等の利用者層である富裕層以上に対する到着空港周辺の目的地とをつなぐ空港からの二次交通、シームレスな移動への対応例を中心に、各種サービス等の現況調査を行い、ビジネスジェット等に係る地方における空港利用の活性化と地域振興に向けた方策のあり方を調査予定



Falcon2000（航続距離約6000km 最大19名）

ご清聴ありがとうございました。

## 【ビジネスジェット等の利用者層について】

### ■ビジネスジェット機保有者等の分類例

分類	利用方法	利用者層等
保有者	保有 (いつでも利用可)	平均純資産額15億ドルの Billionaires
プログラム メンバー	メンバーは利用したい時に固 定料金で、利用可	平均純資産額11.7億ドル のBillionaires
その他	チャーター会社等を通じて、 必要な時にチャーター利用	主にUHNW

※THE JET TRAVELER REPORT 2018より作成

### ■富裕層の分類例

分類	個人資産額	世界推定人数
億万長者 (BILLIONAIRES)	10億ドル以上	3000人以上
超富裕層(UHNW)	10億～3000万ドル	381,800人
富裕層(VHNW)	3000万～500万ドル	350万人

※WEALTH X HP (2023年3月閲覧) より作成

### ■各分類の富裕層における旅行者の傾向例

分類	超富裕層(UHNW)	富裕層(VHNW)
平均旅行費用	60000ドル	18000ドル
主な旅行手配方法	Specialist	Concierge
主な旅行目的	Getaway	Impress
主な宿泊利用施設	高級ヴィラ	高級ホテルジュニアスイート
航空移動(短距離)	プライベートジェット	ビジネスクラス
航空移動(長距離)	ファーストクラス	ファーストクラス

※DEFINING THE GLOBAL LUXURY TRAVEL ECOSYSTEMより作成

※なお、観光庁における『高付加価値旅行者』の定義は着地消費100万円以上/人の訪日外国人旅行者であり、定義は異なる。

### ■これらに限らないビジネスジェット等利用例

目的地へ直接飛行する場合は短時間だが、直行便がなく経由便や地上等交通にて所要時間や環境の差が大きい場合(例: 目的地が離島や山岳地域等)

但し、ビジネスジェット等での移動は高額であり富裕層の利用も超富裕層と同様に比較的短距離フライトでの利用が多い(例: 欧州、北米などの域内等)と想定